元気とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐　勉　　2026年01月26日　第1252「週刊五十嵐レポート」

直感

ランチェスター経営のテキストに、下記のようなことが書かれている。

明治に入り、日本でも産業革命が進んだことで石炭の需要が急増した。大正2年ごろは福岡県内に200社以上の石炭会社があった。社長の多くは別府に別荘を建て豪華な生活をしていた。昭和30年代に入りると、石炭に代わり石油が増加。石炭の需要は激減。業務転換に成功したのは10社弱(生存率5%以下)。

新商品開発において、どれに絞るか、戦略知識とカン、そして競争相手との力関係を考えて推し進めていく。(直感:説明や証明を経ないで、物事の真相を心で直ちに感じ知ること)

1月25日付日経新聞、「私の履歴書」はキヤノンCEO御手洗富士夫氏。

デジタルカメラの台頭には社長に就任してすぐ危機感を覚えた。ある家電メーカーの製品に触れてみて「我々のカメラは駆逐されるのではないか」と感じた。当社のカメラ部隊はフィルムカメラの成功体験から「デジタルカメラは本物ではない」と考えていた(無視していた)。元ビデオカメラ開発の責任者に「デジカメの画像処理エンジンの開発はどれくらい難しいのか」と尋ねると、「そんなものはわけないです」という。「なぜやらないのか」と聞くと、「予算がないからです」と打ち明けられた。「ならば、予算は私がつける」と即決。1年半で開発できた。これ以上遅れたら、挽回するチャンスはないと考えた。IXYのヒットでカメラの命脈は保たれた。

キヤノンも間違えたら、多くの石炭会社のように転換できなかったかもしれない。多くの企業は自社の花形商品を自ら壊して新商品を開発することはない。映画会社の後にテレビ会社。今は配信会社。会社の主役は変わっていく。

デジカメの台頭で御手洗氏は危機感を思えた。しかし担当責任者は感じなかった。元ビデオカメラ開発責任者に聞いて、社内にデジタルカメラの知見があることを知った。この動きがなかったら、キヤノンには知見が眠って、日の出を見られなかったかもしれない。ほんの紙一重。社長の直感、大事ですね。

ちょっと気になる出来事

1月19日～23日、日経新聞、「人間発見」はエコノミストの呉軍華さん。中国経済における彼女のコラムはよく読む。

「中国の理解には習近平（シー・ジンピン）国家主席の資質や共産党の行動原理の分析だけでは不十分。秦の始皇帝以来、2千年を超える歴史の中で育まれた文化の本質を捉えなければならない。端的にいえば徹底した権力志向。中央、特に最高支配者への集権に対するこだわりは共産党に限らず中国の王朝がたどった文明的特徴です。」

「習主席が台湾の統一を目指すのも個人的な意思を超え、中国語の『大一統』、領土や民族、文化を1つの権力の下に統合しようとする中華文明の伝統に根差しています。この文明により、『統一は善』とするDNAのような民族的意識が形成されました。」

私は以前より中国の歴史を学んでいた時、今の中国は秦の始皇帝から脈々と引き継いできたものではないかと思っていたところ、呉さんのコラムでやはりそうかと思った。

今の時代は近代かと古代とかがいろいろ入り混じった世界なのかもしれない。

一口メモ
知識

人間の品位

孔子が弟子たちに求めたのは、能力よりも品位だった。

政治家や指導者の道徳的感化によって国や社会が道徳的に生まれ変わると考えた孔子にとって、人を導く者の品位ほど大切なものはなかった。

孔子は「目的のために手段を選ばない」という生き方を斥（しりぞ）けたが、それは、そうした生き方が何よりも品位に欠けるものだったからである。

孔子は身分社会の中に生きていたが、品位という基準を設けることによって外的な身分や階級を超越していたと言える。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校　毎週日曜日・水曜日　午前10時～12時
●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校　開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス　〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703　Fax03-3659-7077　info@igarashireport.com